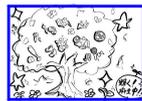




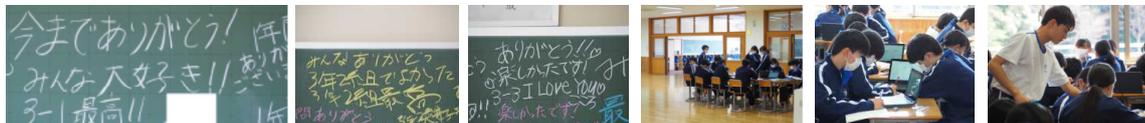
# かがやく麻生中!

令和8年3月13日発行 第62号  
行方市立麻生中学校  
住所:行方市南327-3  
電話:0299-80-8070



自分の思いや考えを表現し課題解決しようとする(語り場 学び場 麻生中)

## ～普通であること～



3年生がいない学び舎は、どこか寂しげです。黒板に感謝のメッセージが綴られ、思いが残っています。3年生の存在の大きさを感じます。

そう感じている間もなく、1・2年生の授業風景を見つめると1・2年生は普通どおり授業に臨んでいます。「当たり前」の事を「当たり前」に、14年前、開校当時の生徒会役員生徒が口にしていたフレーズです。当たり前を大切に徹底することを「凡事徹底」と言います。授業を見て思ったことは、1・2年生にも脈々と受け継がれている「凡事徹底」です。

すでに、目の前で新たな麻生中学校づくりが始まっていると感じました。当たり前を当たり前でできる麻生中生のよさ・強さを再発見しました。

## ～対話～

朝の登校支援時の対話です。横断歩道を渡りきった生徒に何気なく「寒いですね」と話しかけると「本当に今日は寒いですね」と答えてくれました。この時、俵万智の「寒いねと話しかければ寒いねと答える人のいるあたたかさ」という歌を思い出しました。

本校は学習や生活の中で「聴き合う関係性」を大切にしています。聴き合う関係性の土台は受容と共感です。なんとわなしに話した言葉、不確実で曖昧な言葉も聴き、受容したり共感したりすることが、安心や安全感につながるからです。何気ない対話、生徒が示してくれた受容と共感によって温かな気持ちになった朝でした。

## ～卒業式場の片付け～

3月11日(水)1・2年生が卒業式場の片付けを行いました。イス、テーブル、ひな壇、演台、幕、横看板、放送機材、紅白幕、シート、大型テレビ等、生徒は協力し合い、収納することができました。体育館のモップがけも丁寧に行いました。声をかけ合いながら、丁寧に落ち着いて行動することができたのでケガもなく、安全に片付けをすることができました。生徒の声を聴くと「大丈夫 重くない?」「そっちをもって こっちは私が持つ」「両端を揃えよう」「ここに置いていいのかな?」「一緒に運ぼう」「これで大丈夫かな」等、対話をとおして、友を気遣い活動内容を確認し、同じ時間をともにしていました。そして、いつの間にか式場は元の体育館になりました。



< 「すてきなこと」 ニーチェ(ドイツの哲学者) >  
一緒にいてだまっていることはすてきだ。  
もっと素敵なのは一緒に笑っていることだ。  
二人以上で一緒にいて同じ体験をし共に感動し泣き笑いしながら同じ時間をともに生きていくのはとても素敵なことだ。

美しい環境は心を整えてくれます。入学式に向けて、枯れ枝を切ったり水をあげたりし環境を整えてまいります。

